

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000413		
法人名	クリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ江別東光館		
所在地	北海道江別市東光町33番地6		
自己評価作成日	令和4年11月7日	評価結果市町村受理日	令和4年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhou_detail_022_kanri&true&JigyouvoCd=0191000413-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和4年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設内にひきこもらないように、季節を感じられるよう外出を多く取り入れています。
出来る事は利用者と一緒にいき、食事の下ごしらえや後片付け等利用者中心に一緒に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2017年12月に開設した「グループホームたんぼぼ江別東光館」は、江別駅から約1キロほどの距離にある閑静な住宅街にあります。建物は一階の玄関から左右に2つのユニットが広がり、暖色系の壁と大きな窓は採光ゆたかで開放感があります。昨年、全職員の意見で策定したミッション・ビジョン(理念・基本方針)の理解を深める手段として、職員個々が課題解決の目標を決め、三カ月ごとに結果を確認しています。その取り組みは職員の自主性や向上心に繋がりを、質の高いケアの提供に効果を上げています。コロナ禍の制限がある中でも街路樹花壇の整備や他法人バザーに参加をして地域交流に努め、コロナ終息後の地域貢献や地域交流を検討しています。また、混雑していない場への外出やビデオ電話での家族面会など、感染状況を確認しながら臨機応変に対応しています。年間行事には運動会や花火大会が盛り込まれ、趣向を凝らした様々なリクリエーションや管理者作成の漢字パネルゲームなどが利用者の日々の生活の張り合いや活力となり、職員・利用者ともに笑顔溢れる事業所となっています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念」という言葉ではなく、ミッションビジョンに変えて行っています。リビング等に掲示しそれを踏まえた取り組み、ケアを行っています。	職員一人ひとりが昨年見直したミッション・ビジョンの実践に繋がる目標を3カ月ごとに立て、取組内容・結果を一覧表で掲示しています。職員の自主性や向上心が育まれ、支援の質向上に効果を上げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではありませんが、公園等に散歩に行った際には挨拶を心掛けています。施設の行事に地域の方々来て下さる等交流する機会がふえつつあります。今年度もコロナウイルス感染予防の為機会がありませんでした。	近隣にある他法人の福祉施設のバザーなど、交流の機会には感染状況を確認しながら参加しています。自治会では「街路樹花壇」の一部を担当し、利用者とともに苗植え・水やり・草取りを行い地域の一員として活動しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やご家族、相談に来られた方々を通じ認知症の事を知ってもらえるようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	町内の方、ご家族、行政の方に参加いただき意見交換、ご指導を頂きサービスの向上に活かしたいと思っています。今年度もコロナウイルス感染予防の為書面にての報告となっています。	運営推進会議は2カ月に一度、書面会議で実施しています。構成員の家族、町内会役員、行政担当者には、運営状況や事故報告、写真付きの行事報告を議事録にまとめ、感想や意見を返送する書面とともに配布しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは日頃からご指導頂いています。感染予防や災害時の対応について等随時連絡をもらっています。	市の介護福祉課との感染症対策、ワクチン接種などの情報交換のほか、日常業務に係る相談で連携しています。今年9月には防災課の出前講座を初受講し、職員が自らの身を守ることの大切さについても学んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設け年2回の研修、外部の研修へ参加し理解し防止に努めています。	法人の虐待防止の指針に則り、介護事業部合同で「身体拘束適正化・虐待防止委員会」を3カ月ごとに実施しています。事業所からは担当職員が参加し、資料・議事録を全職員で共有しています。今年度は不適切ケアについて事業者内研修を行い、徹底理解をはかっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自施設の研修、外部の研修への参加等学ぶ機会を持ち防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自施設の研修では取り上げられる事が少なく、理解できていない事が多くあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の申し込みや契約時に家族への意見・要望等を聞き説明・納得していただくようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族来訪は減りましたが、来訪された時に利用者様の状態をお伝えし、月1回、生活報告書にて状況報告しています。	職員は利用者ごとに担当制をとり、家族が意見等を述べやすい環境作りに努めています。毎月の通信や生活報告書送付のほか、介護認定、介護計画作成時などの機会に事業所運営についての意見を確認しています。コロナ禍での面会は、感染状況を考慮して臨機応変に実施しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常時、会議中に話しをする機会を設けています。	日々の職員の意見はユニットリーダー経由のほか、直接管理者にも伝えていきます。朝の申し送りや職員会議では、行事運営に関するアイデアなど活発な意見交換を行っています。職員面談は今年度から半期ごとに実施し、意見・提案は職場環境や業務改善に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の中での楽しみや向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や外部研修に参加出来る機会を設け、又資格助成制度を活用し職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	北海道GH協会や江別GHあおいの会との連絡を取りネットワークづくりをしています。今年もコロナウイルス感染予防の為活動が出来ていません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者との面談を行い、本人の状態や話しを聞いています。また入居時に不安のないように、職員は本人の過ごし方を観察し何に戸惑っているのかを見極め話しやすい環境を作れるように関わりを持っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者、職員が家族がどのような生活を希望しているのか、安心してサービスを利用できるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時本人と家族の要望や困っている事を聞き、暫定プランに反映させています。必要時は他職種との連携にも努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として教えていただく事もあり、一方的な介護にならないよう関係を築いていきたい。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に職員、家族が協力し本人を支えていける関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や友達、電話等可能な限り出来る支援を行っています。今年もコロナウイルス感染予防の為時間を提供する事が出来ていないです。	家族や友人とは、短時間の直接面会、窓越し、ビデオ通話などコロナ禍の感染状況に応じて可能な限り実施しています。面会困難時には写真を通じて思い出を語ってもらうなど、馴染みの人や場との関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った人同士が同じテーブルで食事したり、体操やレクリエーション等で利用者様同士が関わりを持てるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様やご家族様と会う機会がなく、そのような機会がありませんでした。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切に、その人らしさやこだわりを尊重しています。利用者様との何気ない会話を記録やメモに残し、支援につなげるようにしています。	今年度、利用者の表情や言葉をより詳細に記録するために内部研修を実施しています。利用者の思いや意向の把握について職員の意識が向上し、記録の充実・情報の職員共有・介護計画への反映と好循環が生まれ、ミッションの理解にも繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活歴や習慣等を聞き、出来る限り維持した生活が送れるよう、ケアプランに活かし支援して行きます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活状態は介護支援記録に記録し、毎日の引継ぎや職員会議、ケアプランに反映させています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各担当者がモニタリングをし、計画作成担当者、管理者がチェックし3ヶ月に1度見直し、ご家族・職員から意見を聞きケアプランを作成しています。	利用者の担当職員が毎月モニタリングを実施し、計画作成担当者が3か月ごとに見直し、管理者のチェックを得て介護計画を作成しています。計画は本人の意向をもとに、家族や主治医の意見、看護師のアドバイスが反映しており、入院など状況変化の際は随時見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援記録やアセスメント等を利用し、共有しながら見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに対応できるよう努力したいと思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、買い物等の外出が出来ませんでした。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に継続してかかっています。利用者の状況や家族の希望などで、往診医に変更もあります。	約7割の利用者が入居前からのかかりつけ医に継続して受診しています。市内の通院は職員が同行して医師に日常の健康状態を伝え、適切な医療の提供に繋がっています。週2回の看護師による健康チェック、協力歯科医による週1回の口腔ケア・月1回の歯科検診のほか、往診可能なクリニックとの連携も行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間での情報共有を看護師へ申し送り、利用者が適切な看護を受けられるようにしています。夜間のオンコールにも対応してもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活状況やADL等の情報を病院に提供しています。治療状況や退院の目途など随時連絡を取っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望と本人の意思を確認し、事業所のできる事を行っていきたくと思います。	入居時に「利用者の重度化・看取りに係る指針」を本人と家族に説明し、同意書を得ています。現在まで看取り経験はありませんが、毎年、内外の研修に参加し理解を深めています。年に一度、終末期に関する意向を本人・家族に確認する機会を作り、支援の在り方を検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員は参加できませんが、市消防所の普通救命講習会に参加予定です。今年の実施出来ていません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災時避難訓練、地震想定シェイクアウト訓練、水害時訓練や講和を行っています。	洪水時浸水地区にあり、今年8月に水害避難、別日には夜間想定火災・地震避難訓練を実施して避難完了タイムを計測しています。自家発電機、電池式暖房器具を備え、市内にある系列ホテルへの早期避難も検討しています。	水害避難訓練、火災・地震避難訓練はどちらも8月の実施で、冬季間の訓練は未実施です。近年は雪害も多く、冬季の災害訓練は欠かせません。季節に応じた避難時の持ち物、移動手段、時間等について計画・準備・訓練を期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として接し、言葉使いに配慮している。その場の雰囲気合わせた対応をしています。	入職時に介護職員としての身だしなみを伝えていきます。利用者を尊重した言葉使いは管理者自らが見本となるケアを行い、職員に気づきを与えています。プライバシーの確保に配慮をし、利用者が居室で過ごす時間を大切にしています。	利用者の尊重、プライバシー確保は事業所のミッション・ビジョンの実践に大きく関わることであり、対人援助の基本でもあります。接遇マナーやプライバシーに関する研修を定期的実施し、全職員が理解を深めることが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、思いや希望を聞けるよう関わるようにしています。簡単な自己決定が出来る様日々働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	おおよその日程は決まっているが、その人らしい時間を過ごせるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の日課として毎朝身だしなみを整えて頂いています。通院等の外出時にはおしゃれをして頂けるように声掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日は難しいですが、調理や下ごしらえ等出来る範囲で一緒に準備や食事、片付けを行っています。	2週間分の献立表を基に、季節や旬の食材に合わせてメニューを組み立て、毎食職員の手作りで提供しています。利用者は力量に合わせて調理への参加や下膳を行い、誕生日のリクエスト食の他、外食、ケータリング、行事食とバラエティーに富んだ食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量、食べられる量を把握しバランス良く提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けをしています。手伝いが必要な際にはスタッフが介助しています。全員ではありませんが、週1介訪問診療を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心掛け、排泄パターンや習慣を大事にした支援を心掛けています。	排泄チェック表で把握した排泄リズムを全職員で共有しています。車椅子利用でも立ち上がり出来る限りはトイレでの排泄を促しており、現在、トイレ排泄可能者は9割を占めています。安眠を重視した衛生用品の使用を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事、緩下剤の調整、適度な運動を行い、個々に応じた予防対策を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	出来る限り希望に添い、個々のタイミングで入浴が行えるよう支援しています。	週2、3回の入浴は、通院や行事に合わせた時間帯で行っています。数名の自立者には安全に配慮した声掛けや、意向に沿って洗髪を支援しています。入浴拒否者には、お湯の香りや色を楽しめる入浴剤を使うなど、入浴が楽しみになるよう工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に自室で休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員はいつでも観覧する事が出来ます。連絡ノートを使い服薬変更や配慮すべきことの情報を共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の希望を出来る限り行えるよう、日々支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも出かけられるようにし、見守りをしています。コロナ終息後はドライブや外食等出掛けたいと思っています。	充分な感染症対策をとり、近郊の公園、神社、バラ園等へ外出しています。日常的には近隣の散歩、街路樹花壇の整備などで地域とのつながりを持っています。毎年恒例の駐車場での花火大会も利用者の楽しみの一つとなっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを持参されている方は病院代の支払いや買い物をしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	先方からかかってきた時には取り継ぎお話ししてもらっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて利用者様と一緒に作成した貼り絵や花を飾っています。	食堂兼用の居間は採光よく、運動会などのリクリエーションも可能な広さです。壁には季節に合わせた利用者作品のほか、行事の写真、利用者のベストショットがコルク板に貼られています。リビングでは管理者作成の漢字パネルゲームが流行り、利用者の笑顔が広がっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで思い思いに過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居時に家族と相談しながら、使い慣れた物や好みのものを置くようお願いしています。	居室は使い慣れた家具のほか、利用者が趣味で作成した毛糸の人形や木彫りのレターケースなど思い入れのある小物が持ち込まれています。動線を考慮した家具の配置や日々の整理整頓など、居心地の良い居室空間の提供に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがついていて、安全に歩けるよう配慮しています。トイレ、自室にネームプレートがかかっており迷わないよう配慮しています。		